鉄人たるポイント

ジャイコム会長
田川　洋

昨年の秋、プロ野球解説者、衣笠祥雄氏の「限りなき挑戦」と題した講演に接する機会があった。内容的に成程と納得できる点があったので、私感を交えポイントを紹介したい。野球人生を通じて、先ずは「好きになること」が大事とのこと。これは総てに通じるものと思うが、ランクの相違はある。例えば、仕事より会社、更に当業界となれば、取り組み方も変わってくるのではないか。

「何のためかの目標を持つこと」揺れ動く社会にあっては尚更と思う。

「自分の身体は自分で責任を持つ」「将来の為の準備をしておく」「自分なりの理想像を描くこと」常に、自己をコーディングしていくことで、今まで気付かなかった潜在能力を発掘できる。

誰人であれ「時間の使い方」が大事である。「クセを読む」これは自己、他人ともに通じる点であり、人材育成には欠かせない要素である。熾烈な競争の中にあって、継続力、努力、労苦の人は違うなと感じた。

最後に、同氏は「今の日本は自信を失っている」と指摘していた。大変革期を迎え当業界の将来像についていろいろあるが、確固たる信念とプライドで足元を固めていくことが第一の得策ではないかと思っている。

南飛騨

ユニテックス社長
桜井　治

北アルプスとそば好きが嵩じて、学生時代の仲間と「そば紀行の会」をつくり、毎年、四季折折に信州各地を探訪している。

去年の秋、中高年でも無理のない山行をと思い、山麓の温泉を物色し、南飛騨の白草山に登ろうと決めたのは、アプローチの山間にある乗政温泉に大きな魅力を感じたからである。

登山口黒谷林道の分岐より45分程の緩い登りを過ぎ、細くなった黒谷の流れを渡り、山腹に辿り着く。潅木と笹のトンネルを抜けると奥美濃から飛騨山地への大きな眺望が開ける尾根に出る。幾重にも重なり合う山また山の風景は、日々の喧騒を忘れさせる。県境稜線を越えると、荒々しく赤茶けた地獄谷から、今日も白煙を上げる御岳山の雄姿が唐突に目の前に現れ、登った喜びが倍増する。南の三角点までは、笹に覆われた高原台地状の緩い登りで、疲れを解きほぐしてくれる心地よいプロムナードだ。

1,641mの標高を感じさせない穏やかな山頂で、仲間と地酒で乾杯し、傾きかけた陽にせかされるように下山。楽しみにしていた乗政温泉で、疲れを癒し、仲間とイワナの骨酒と山菜料理、それと目当てのそばに舌鼓を打ち、語り合う楽しい一時であった。又、是非とも訪れたい地である。

鎧橋随想

相場と釣り

アスコップ社長
角石　善英

人間一芸に秀でると云いますが、私の場合、40年間相場の世界におりますが、なかなかこの世界は、未だもって理解に苦しむ日々が続いております。

趣味を通じて何かヒントがないか、相場と趣味を比較しながら色々とやってきました。趣味の一つに釣りがあります。

これは長い間、相場の世界にいるのと同じく、やはり40数年やってきました。ヘラ釣りから、磯釣り、船釣り、その他です。

その中で、待ちの釣りと攻めの釣りがあり、相場にも売り、買い、休むと3原則があり、どこか似ている所があります。

釣れない悩み、釣れた時の喜び、自分の思いと違う相場の足どり、自分の思いどおりという相場感。悲喜こもごもです。

釣りには、潮をみると云いますが、込み潮、下げ潮、下り潮、昇り潮、やり潮、いろんな潮がある中で、どの潮に望むか、その釣り場所と釣る魚によって異なってきます。

色々と試行錯誤をしながら、その時その時に対応していかなければと思っていますが、未だ答えが出ません。

読者の方に同じ趣味のお持ちの方がおられましたら、御指導のほどよろしく御願いします。

オホーツクの流氷

日進貿易専務
小崎　輝明

私は北海道・網走の生まれですが、父の転勤の関係で、釧路、北見、旭川、札幌など北海道各地を転々としました。釧路は小説「挽歌」の通りで、霧が深く趣のある町でしたし、オホーツク周辺は夏になると一面、原生花園になります。原生花園というと網走の小清水が有名ですが、網走から宗谷岬まで原生花園と名の付くところがどこにもあります。

このようにそれぞれに思い出がありますが、小さいころに網走にいた関係でしょうか、なんといっても網走の思い出がいまもよく頭をよぎります。

網走は夏もよいのですが、最も強烈なのが流氷の印象です。いま、流氷祭などで観光の目玉になっていますが、それもうなずけるものがあります。流氷は夜に入ってくることが多いのですが、夜中にギシギシと氷と氷がきしむ音がして、近づいてくるのが分かります。その音で、目が醒めたこともしばしばです。

ところが、流氷は去って行くときはまったく、音がしません。スーっと音も立てずに去り、気がついたら流氷がなくなっているのです。なにか、人生に通じるものがあります。仕事でも人間としても、そのようにありたいと思っています。

拝見・新本牧ウォーキングクラブ
80回以上、欠かさず参加

松村社長
松村　俊幸

歩け歩け（金沢文庫・三山巡り）
真ん中の野球帽の人が松村社長

横浜商品取引所の古い会員で、シルク専門商社、松村（生糸先物商社、機屋のヘッジ玉のみ取り扱う）の3代目社長、松村俊幸さんが事務局長を務めるウォーキングクラブ活動が82回を迎えた。「みなさん集まってー」「少し急いで」「そろそろ出発します」――。ウォーキングクラブの事務局長は忙しい。コースで見学先で、昼食場所で、いつも気を配っていなければならない。コース設定、開催通告、結果報告なども事務局長が中心になる。

新本牧ウォーキングクラブ。松村さんが平成8年に同じマンションに住んでいた仲間とつくり、事務局長に就いた。

それから8年目、月一回の催しは今年2月の観梅ウォーキングで82回に達した。松村さんは1回欠席したかどうか、はっきりしないほど参加している。会長の大橋清さん（東レ経営研究所）が写真撮影、資料収集係を務め、全回の詳細な記録を残している。まさに名コンビ。会員は38名、3つのマンションから参加がある。会長、事務局長はともに既にマンション居住者ではないが、地域のクラブとして定着している。

松村株式会社は、創業者松村亮吉が明治41年11月、24歳で横浜の中区常盤町に絹織物販売店の看板を掲げてから95年が経つ。2代目社長の松村千賀雄さんは19年間、市会議員を務め、その間、市議会議長、横浜生糸取引所理事長にも就任した。

「地域活動に励む」のは初代から引き継がれている精神。住吉町1丁目から6丁目まで毎月1日に社員全員で街路を掃除しているが、この作業ももう40年近く続いている。

3代目は、マンションの管理組合理事長を経験、小学校PTA会長で、ロータリークラブ、消防団、商工会議所などにも関係している。ウォーキングクラブの活動については、夜間開催、グルメ関係など企画に知恵を絞りつつ、先代の足跡をみれば、まだまだ地域貢献が足りない――と思っている様子だ。

＊大賀忠直氏を偲ぶ会＊

約150人でしめやかに

2月26日、福岡市のホテルニューオータニ「芙蓉の間」で、「故　大賀忠直氏を偲ぶ会」がしめやかに行われた。

これは福岡商品取引所が前理事長大賀忠直氏の功績を称えて行ったもの。まず、主催者を代表して中村光弘・現理事長が挨拶し、来賓代表として全国商品取引所連合会理事長森實孝郎氏、東京工業品取引所顧問間渕直三氏、全国商品取引業健康保険組合理事長多々良義成氏、全国商品取引業厚生年金基金理事長下山彌壽男氏、友人代表として河村勝三・元東京穀物商品取引所専務理事が挨拶、故人の功績を称えた。

その後、親族を代表して長男の大賀俊直氏がお礼の言葉を述べ、福岡商品取引所取引員協議会会長坂井康明氏の音頭で献杯。あと、故人をしのんで歓談が行われた。偲ぶ会には約150人が参加した。

2月26日、福岡・ホテルニューオータニ

◆事務局だより◆

平成15年度事業計画・収支予算（案）を今月20日に開催する臨時総会にお諮りいたしますが、同総会に先立ち、左記のとおり会員懇談会を開催いたします。

【関東・北海道地区】
①12日、午後9時30分
②同日、午後1地30分
会場…日商協2階会議室

【関西・西日本地区】
17日、午後9時
会場…ホテル日航大阪

【中部地区】
17日、午後2地
会場…ソフィテル・ザ・サイプレイス名古屋

ご多忙とは存じますが、会員代表者の方々にご出席いただき、協会運営、今後の業界のあり方等につきまして、忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

証言・戦後先物史
福岡商品取引所の戦略（上）

福岡商品取引所理事長　中村　光弘

13億円かけて福岡移転

福岡商品取引所

――福岡商品取引所は2001年5月に下関から移転、1年半を超えました。なぜ、福岡に移転したか、その経緯をお話し下さい。

中村　1984年10月18日、当時の大賀理事長が「福岡移転」をぶち挙げ、新聞に載って大騒ぎになりました。これが最初の動きです。もっとも、これは大賀さんのリップサービスで当時は具体的な動きはありませんでした。

――具体的に動き出したのは？

中村　1990年、農水省が取引所の大合併を打ち出したころです。この時、関門商品取引所は「どことも合併せず、独自路線をとる」ということになりました。しかし、関門商品取引所の将来を見据えるため、翌91年3月14日「関門商品取引所基本問題検討委員会」を設置、議論を行ったところ、その中で「福岡移転が望ましい」との方向性が出されたのです。

――1984年の時には大反対が起こったと聞いています。この時は。

中村　このころには専業商品取引員が多くなり、状況は変わっていました。商品取引員の多くは福岡に本拠を構えていたので、大きな反対はありませんでした。

――福岡移転となると、費用も膨大な額になります。

中村　95年から剰余金の積み立てを始めました。同年の定時総会で建設資金「5,000万円積み立てる」との動議が大賀理事長から提案され、可決されました。それから6年間で6億円を貯め、別途積立金7億円を加え、合計13億円かかりました。99年にJR九州福岡駅に近い現在の地に土地を購入、翌2000年に起工、2001年に完成しました。その前にコンピュータを使ったシステム取引に移行する時、福岡市祇園町のビルに事務所を借り、そこにコンピュータを設置しました。福岡移転の布石であったといってもよいのではないでしょうか。

――なぜ福岡なのでしょうか。

中村　福岡は九州の中心であり、東南アジアとの交流も極めて活発です。「アジアとともに生きる」という当取引所のねらいとマッチしていたからです。

（つづく）